
本壘打戦士

阿天

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本壘打戦士

【Nコード】

N8587U

【作者名】

阿天

【あらすじ】

本壘打を打つ事だけを人生の目標に据えた、ある男の物語。

読者諸君、

俺の名は「本塁打戦士」だ。

本塁打戦士とは、

本塁打を打つ事のみを目標とする打撃戦闘員のことだ。

俺の戦場はバッティングセンター。

ここに立つのは初めてだ。

そう、今日は俺の初陣なんだ。

志願兵として入隊して以来、血のにじむようなイメージトレーニングと、毎日素振り10回のハードな訓練にも耐え、やっとここに来ることが出来た。

何事も最初が肝心だ。

俺は念のため、一番遅い80キロという半ば屈辱的な球速から試してみることにした。

キン・・

遠い・・

ホームラン賞の的が異常に遠く感じる。いや、まだあきらめるわけにはいかない。80キロだろうがなんだろうが、ホームラン賞の的に当たれば要は良いのだ。気を取り直して第二球を打とうとしていたその時、

「ちえっ・・当たるけど飛ばないや。」隣で打っている小学生が言っていた。なあんだ、俺もまだ行けると思った。

「120キロじゃ遅すぎてタイミングが狂うなあ。少年野球チームのピッチャーの方が良い球放るよ。まったく。」小学生が言った。おやおや俺もそろそろ逝こうかと思った。

しかし、

俺は本塁打戦士。

あくまで本塁打だけが目標だ。速い球を打つかっこよさに目が眩んだら負けなのだ。今に見ている、このクソいまましい小学生よ・・・！

カキイイーン！！

鋭い打球だ。栄光の的目がけてまっすぐ飛んでいく！しかし、打球は的をわずかにそれて彼方へと消えていった・・・。

俺は苦い敗北感を味わいながら、戦場を後にした。

だが、

俺は決して諦めない。いつの日か必ず本塁打を打つてみせる。そして、俺は英雄として祭り上げられ、バッティングセンターのオヤジの娘と結婚し、末永く幸せに暮らすのだ。それだけを夢見て。俺は本塁打戦士。

若者よ、

今こそバットを手にとれ！

そして、打つのだ・・・本塁打を！

（後書き）

ほぼ実体験です。

完全に運動不足ですね・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8587u/>

本壘打戦士

2011年10月9日11時47分発行